



## 基幹IAサーバ/Linux 特集に寄せて

経営執行役  
サーバシステム事業本部長

山中 明

激しく変化するユビキタス時代のビジネスを支えるITシステムには、24時間365日の安定稼働、業務の負荷変動や新規業務の追加に対するスピーディな対応、トラブル発生時の業務に対する影響の局所化、複雑化するシステムの効率的な運用管理、増大するITコストの削減などがこれまで以上に求められております。

富士通は、これらを解決するIT基盤として、TRIOLEを提供しております。TRIOLEにより、「ビジネスの成長・拡大」、「スピーディな業務構築」、「システムの安定運用とTCO削減」を実現し、お客様に最適な情報システムを提供いたします。IT基盤「TRIOLE」は、最適なサーバ、ネットワーク、ストレージ、ミドルウェアを組み合わせることで、多様化・複雑化するお客様の要件を満たします。

富士通はTRIOLEを構成するプラットフォームの一つとして、インターネットサーバからアプリケーションサーバやデータベースサーバなどのミッションクリティカル領域まで急速に普及が拡大しているLinuxを戦略的重点プラットフォームと位置付けています。基幹システム構築ノウハウをLinuxにも適用することで、ミッションクリティカル領域の大規模基幹系システムに適用可能なLinuxソリューションを提供してまいります。

本特集では、富士通によるミッションクリティカル領域へのLinux適用に向けた取り組みについて、基幹IAサーバ“PRIMEQUEST”を中心にご紹介いたします。

PRIMEQUESTは、富士通が長年培ってきたメインフレームの高信頼技術、スーパーコンピュータやハイエンドUNIXサーバの高速化技術と、利用者の自由な選択肢を広げるオープン性を融合させ、“ものづくり”にこだわって新たに独自開発した基幹サーバです。新規開発の2重化同期アーキテクチャ“Dual Sync. System Architecture”に基づき、業界最先端90 nm半導体テクノロジー採用の「富士通独自開発チップセット」や「システムミラー機構」、「フレキシブルI/O機構」など、数々のテクノロジー・イノベーションを結集し、メインフレームの安定性・信頼性とオープンサーバの柔軟性・経済性の両立を実現いたしました。

PRIMEQUESTは、最高(Prime)を追求(Quest)し続けるという意味を込めた世界最強のオープンサーバとして、Linuxによるオープン・ミッションクリティカルな新たな世界を切りひらいてまいります。